

拠点集約で合理的な生産体制

パネル生産技術生かし事業展開多様化

高橋木箱製作所

高橋木箱製作所(東に集約・コンパクト化した数量を現物中心に京都、嶋田貫一社長)を図るとともに、パネル製作のノウハウを活用し、影響を軽微に抑えている。今後、2×4

掛ける。現在は、公共物件の対応も視野に入れる。社員大工は当面の目標人数である10人に向けて育成が進む。業界の職人不足が取りざたされるなか、建築技術力と人員で需要に貢献できる体制を目指す。

また、2×4パネル生産技術とタカハシフ

茨城事業所

AMシステムを生かした図面作成等による顧客支援も強化したい

また、2×4パネル

野地合板加工、プレカット

引き続き力を入れ、加

新たな空間提案とな

トを手掛けていく。取引先

高橋木箱製作所は、全

は大手ハウスメーカーが主

梱包や2×4など各事

体。昨年来の2×4材の品

業の受注は事業所間連

薄や価格高騰について

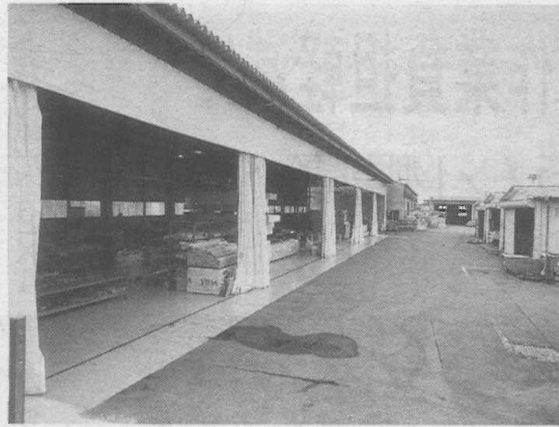
携により、納期やコス

受注量に見合

客対応できることも強

元請けによる建築も手

みのひとつだ。



生産を集約した茨城事業所

元請けによる建築も手

みのひとつだ。